

報 告 書

2019年 9月 7日

会派代表者 望月厚司 様

議員名 佐藤成子

下記のとおり、政務調査費による海外視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2019年8月26日（月）～30日（金）	
2 視 察 先	(1) 国・都市名 視 察 先 施 設 等	静岡市 maas 視察 5日間 (フィンランド) ヘルシンキ
	(2) 対 応 者	ビジネスフィンランド（政府保有企業） Maas Global 社 フィンランド運輸通信省 ヘルシンキ市 Kyyti 社 フィンランド大使館との意見交換
3 目 的	Maasの先進地の実情と、今後、静岡市で導入が可能かどうか検討するために、どの様に進めていけるのか？それがどうすれば可能なのかを、現地で現況を見分し課題を探ることを目的に訪問した。実現に向けた体制のあり方、各種団体の役割の明確化と動機付けやイメージを共有し、将来の静岡市像に繋げる事を目的に視察調査を行う目的を持って参加。	
4 内 容	2日間掛けて、企業・行政機関を訪問①ビジネスフィンランド②Maasグローバル社③フィンランド運輸通信省④ヘルシンキ市⑤Kyyti 社。大使館の方々ともミーティング。 ① Maasに関わる各機関の権限や役割を伺う。フィンランド人は、デジタル化に慣れている。スタートアップする企業を支援するのは良いことだという風土。ICTを使う能力も高い。ノキア社があり、もともとの業務形態が変わる中、新たな起業する元社員が多かった。マースグローバル社・キティー社も、ベンチャー企業である。バス、電車、自家用車、自転車、タクシーを組み合わせた移動手段のサービスの充実を図る。様々な交通手段に対する規制を緩和させた。②Maasアプリ・whim（ウイム）を世界で初めて、社会実装したベンチャー企業。取り組みや理念今後の展望など伺う。車を所有していることに対して、持たない場合に必要なMaasの存在の主張。車所有	

には月8万円もかかる。ドイツの様な自動車優先の様な国民性が無い。格差のない社会背景、税金の使い方への思いなどから、車を持つ価値持たない価値を提唱。サービスとしての移動の仕方の提供を行う。都会でのシステムづくりからアプローチしている。市にとって、人にとって、環境にとって良いのはどれかで考える。③Maas導入時の役割、タクシー等に対する規制緩和、運輸全体としての役割、フィンランド全体としての位置づけなど、今後の進展性等伺う。④Maasやスマートシティとしてのビジョン。目指す都市像、市の役割、実際の財政支援。Maasの効果など伺う。ヘルシンキ市は、スマホの利用率世界1。65歳以上も24%使っている。アプリの使い方も大丈夫。流れとしては、電車と自転車、タクシーと自転車等流れが見えている。Maasのデータの取り扱い保管が一番大事なことだが、市は関わらない。⑤外から、地方や郊外からアプローチ。移動方法を提示しサービスの内容を複数提示、使用後は決済までできる。公共交通とタクシーの間を埋めるオンデマンドシェアライドシステムの開発。また、データの有効活用。政府からの支援は受けていない。バス事業の規制緩和で成功している。相乗りする方法でコストを下げ、使用者の負担を下げている。日本国内で、デンソーやトヨタなどは、Maas起業に出資している。Kyyti社の海外展開戦略に日本が入っている。東急やJR東日本がMaasのアプリを導入検討している。ちなみに、トヨタ自動車は、my route というアプリを使い福岡市でMaasを展開している。

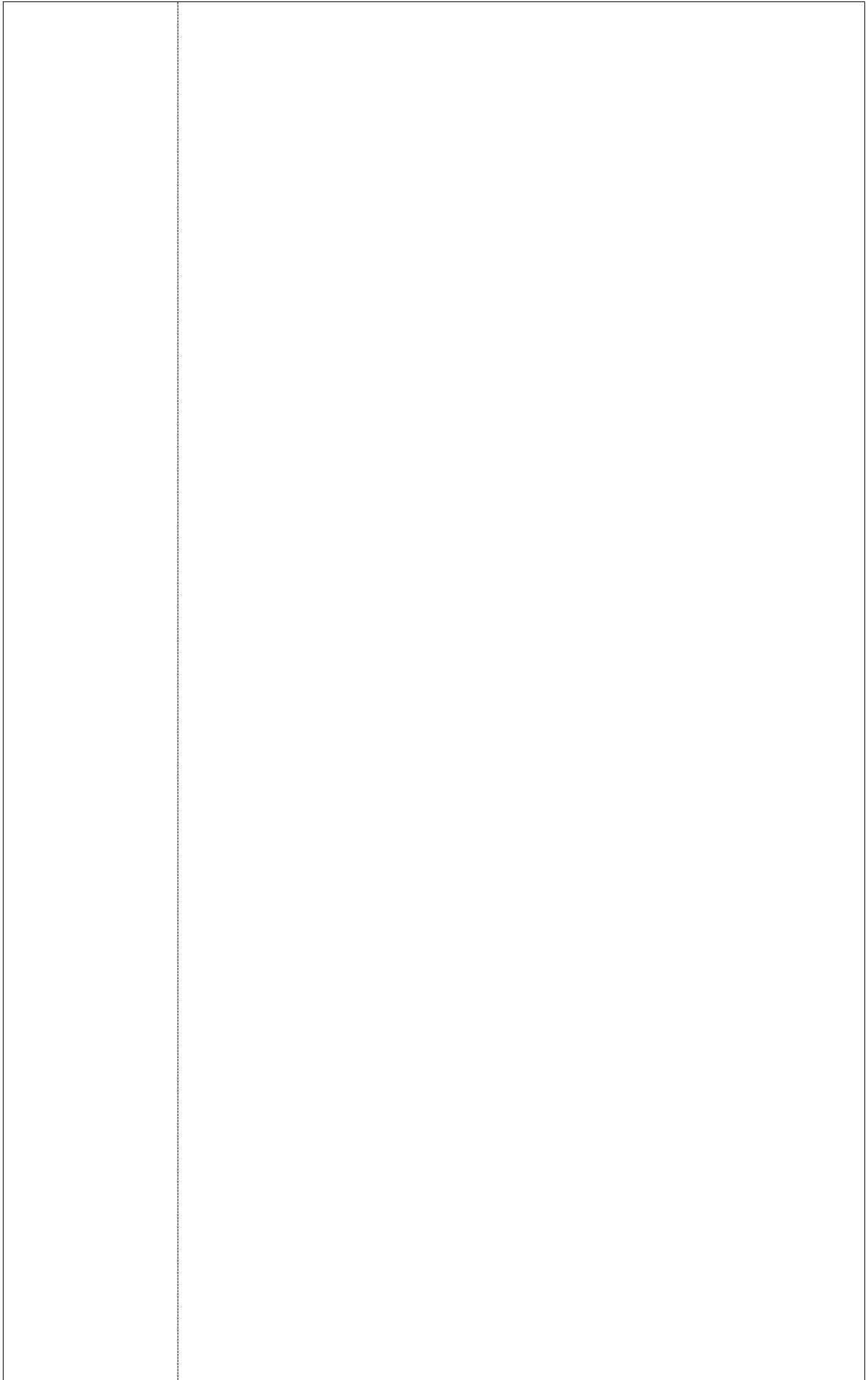
大使館ミーティング

フィンランド企業が日本に興味を持っているとか、その逆などそれらの窓口大使館は、橋渡し役として、役割を果たしている。

①と①と連動させて内容を説明している。

官民連携で進めていこうとしているM a a sの事業。説明では、いろいろな事業者の人が集まって実験する状況にあることが大事なこととの説明があった。又人々は、変革を求めている。Whimのアプリは若い層ばかりではなく、45歳以上の人も良く使っている。車保持者は、車の利用率は4%との事。どの時間でどのように使っているのか調査が必要だとの事だ。色々な街がたくさんあるので、どの地域をターゲットとして展開していくかを考える必要がある。パイロットケースからスタートしてみればいい。とも。M a a sはコンセプトであって、サービスではない。データの駆使の仕方、シェアリングが肝である。「ワンモア・アワー・ワンデー。一時間節約して余分に使えるようにする」持続可能な社会の構築が、M a a s推進事業のビジョン。1台のスマホで、どこでも移動可能になる社会M a a s。本当に静岡市で可能なのだろうか？各種事業の方々が集まり、実証していく事が大事だと言っているが、静岡市のバス、電車業者は1社しかない。タクシーはどれだけ参加してくるだろうか。まず、M a a sの説明を良く良くする必要があると感じる。M a a sって何？人と人を繋ぐ手段。それぞれの目的にあわせて、人は移動する、何よりも、移動しやすいと実感できる静岡市を創っていき事が大目標。現在、バスや電車の運転手の人で不足なや、市民の要求の多様化などで、これまでのサービスでは対応できない状況が課題になっている。免許返納してもこれまでと変わらないで、移動が可能な静岡市の実現など、M a a s導入によって、こんな静岡市ができるとかこんな静岡市にしていきたいなどの夢を市民向けに語っていくべきではないかと思う。官民連携で進めていかなければできない事業です。企業や市民に何を期待するのでしょうか？静岡市として誰一人取り残さない交通体系を目指し、M a a s導入に向け、綿密な推進計画の策定を進めてほしいものです。

M a a s Global社・Kyyti社共にベンチャー企業なのは、凄い。新たな雇用も生み出すであろう部門だ。人口増加にも寄与するかもしれない、静岡市の重要な新規事業だ。しっかりとした土台を築き、着実に積み重ね、成功裏に結びつくことを期待している。





スマホで検索。乗り物の選択をする。路面電車や地下鉄など自由に選べる。



参加の4人の市議会議員

レンタル自転車。電動キックバイクも、街中あちこちにあり乗り捨てできる。すべて、アプリで決済可能。



現在実験中の電動ロボットバス。運転手なしで、軌道に沿って動く、まだまだ実験段階の域は出ていないが、団地や近距離間の移動には便利に使えるかも。

